

2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 株式会社フォーサイド 上場取引所 東
 コード番号 2330 URL <https://www.forside.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 根津 孝規
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 飯田 潔 TEL 03 (6262) 1056
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第3四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	3,631	△1.0	△79	—	△75	—	△85	—
2021年12月期第3四半期	3,669	28.4	200	—	200	—	217	—

(注) 包括利益 2022年12月期第3四半期 △86百万円 (—%) 2021年12月期第3四半期 214百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	△2.64	—
2021年12月期第3四半期	6.68	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年12月期第3四半期	4,165	1,080	25.9	33.16
2021年12月期	4,426	1,166	26.3	35.76

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 1,079百万円 2021年12月期 1,163百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	0.00	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 2022年12月期の期末配当は今後の業績見通し等を踏まえて判断することになっているため未定であります。

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,985	1.9	△99	—	△97	—	△114	—	△3.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年12月期3Q	32,557,704株	2021年12月期	32,557,704株
-------------	-------------	-----------	-------------

② 期末自己株式数

2022年12月期3Q	18,904株	2021年12月期	18,064株
-------------	---------	-----------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年12月期3Q	32,539,258株	2021年12月期3Q	32,540,565株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。実際の業績等は今後の様々な要因によって予想と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	12
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症「第7波」が急拡大し、1日あたりの感染者数が過去最多を更新する等、依然として終息する気配は見せておりません。また、エネルギー価格や原材料価格の高騰、急激な円安進行により物価が大幅に上昇する等、国内外における景気の先行きに対する不透明さが増しております。

当社グループの事業領域であるアミューズメント市場におきましては、Withコロナの新しいライフスタイルに消費者が移行する中、ワクチン接種による予防効果や行動制限の緩和により、復調の気配を見せております。今後は、入国規制緩和によるインバウンド消費の本格的な回復にも期待が高まっております。

住宅市場におきましては、2022年9月の新設住宅着工戸数が前年同月比1.0%の増加となり、前年同月比で2ヶ月連続の増加となりました。また、貸家着工戸数においては、前年同月比で19ヶ月連続の増加となりましたが、引き続き注視が必要です。

このような経済状況の中、当社グループにおいては、主力事業であるプライズ事業・不動産関連事業を中心に営業収益の拡大を図ってまいりました。また、全社での経費の見直しや削減に取り組むことで、事業収益の改善を図ってまいりましたが、急激な円安進行によりプライズ事業での製造コストが大幅に上昇し、利益を大きく押し下げる要因となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益は3,631,682千円（前年同期比1.0%減）、営業損失は79,538千円（前年同期は営業利益200,369千円）、経常損失は75,734千円（前年同期は経常利益200,428千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は85,991千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益217,385千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①プライズ事業

プライズ事業につきましては、株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、前年同期の人気キャラクターグッズ売上の反動減等により、売上高は前年同期を下回りました。利益面においては、景品の多くが中国を中心とした海外製造であることから、急激な円安進行による円換算での製造コストの上昇、エネルギー価格高騰による海上輸送費の上昇等により、セグメント利益は大幅に減少いたしました。

以上の結果、売上高は1,860,586千円（前年同期比13.4%減）、セグメント利益は43,256千円（前年同期比77.0%減）となりました。

②不動産関連事業

不動産関連事業につきましては、日本賃貸住宅保証機構株式会社が家賃保証業務及び物件管理業務等を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、顧客（不動産会社・賃貸人・借入人）に寄り添った丁寧な対応に努めてまいりました。営業面においては、新規取引店の獲得及び既存取引先の再稼働等、営業強化・拡大に向けての取り組みを行いました。また、管理回収面においては与信審査及び債権管理業務の効率化にも取り組む等、状況に応じた顧客管理に努めてまいりましたが、営業強化・拡大によるコスト増加や滞納者が増加したことに伴い貸倒引当金繰入額が増加したこと等により、セグメント利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は1,030,053千円（前年同期比0.3%減）、セグメント利益は77,023千円（前年同期比44.3%減）となりました。

③投資銀行事業

投資銀行事業につきましては、フォーサイドフィナンシャルサービス株式会社がM&Aのアドバイザー業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き案件の成約に至らなかったことから、セグメント損失を計上することとなりました。なお、第2四半期連結累計期間において、当セグメントで計上していた広告費用（20,833千円）については、事業体制の見直しを進めていることに伴い、全社費用に振り替えております。また、当第3四半期連結会計期間においても、当該広告費用は、全社費用で計上しております。

以上の結果、売上高はなく（前年同期は71,636千円）、セグメント損失は45,495千円（前年同期はセグメント損失213千円）となりました。

④コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、株式会社ポップティーンが電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、費用対効果を重視したプロモーション施策を継続し、新規顧客の獲得を行ってまいりました。また、ユーザーニーズに合わせたサイト運営やユーザビリティの向上を目指してまいりました。

一方で、auスマートパス向けアプリ配信事業においては、2022年7月以降、auスマートパス「アプリ取り放題」が終了したことに伴い、減収減益となっております。

以上の結果、売上高は95,738千円（前年同期比31.4%減）、セグメント損失は313千円（前年同期はセグメント利益2,458千円）となりました。

⑤イベント事業

イベント事業につきましては、株式会社ブレイクが各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、4月より「PSYCHOVISION hide MUSEUM Since 2000」を名古屋で開催したほか、多くのイベント来場者数は回復傾向にあり、物販は好調に推移いたしました。また、その他OEM物販が好調に推移したことにより、売上高、セグメント利益ともに、前年の実績を大幅に上回りました。

以上の結果、売上高は345,618千円（前年同期比316.6%増）、セグメント利益は41,991千円（前年同期はセグメント損失19,543千円）となりました。

⑥マスターライセンス事業

マスターライセンス事業につきましては、主に株式会社マーベラスアークが音楽関連事業を行い、フォーサイドメディア株式会社及び株式会社ポップティーンが出版事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、音楽イベント「TOKYO IDOL FESTIVAL 2022」を筆頭に多くのLIVEやアイドルフェス等に出演し、音楽活動を展開してまいりました。

出版事業においては、誌面製作費用の見直しやデジタルネイティブ世代に向けたSNS展開の強化を図ることで、事業収益の拡大を目指してまいりました。また、2022年7月に「Popteen真夏のリアコ祭／Cuugal感謝祭」を主催し、コロナ禍で中断されていたリアルイベントを開催することができました。一方で、広告売上が当初計画に対し低調に推移したこと等により、セグメント損失を計上することとなりました。

以上の結果、売上高は296,604千円（前年同期比56.5%増）、セグメント損失は67,907千円（前年同期はセグメント損失18,601千円）となりました。

⑦その他の事業

その他の事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社が金融事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き貸付金の回収に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は3,080千円（前年同期比30.0%減）、セグメント利益は1,247千円（前年同期比54.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①総資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて260,978千円減少し4,165,594千円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金の減少218,134千円、売上債権の減少109,906千円及び貸倒引当金の増加85,075千円等によるものであります。

②負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて174,729千円減少し3,084,907千円となりました。主な要因といたしましては、未払法人税等の減少118,655千円及び長期借入金の減少91,137千円等によるものであります。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて86,249千円減少し1,080,687千円となりました。主な要因といたしましては、親会社株主に帰属する四半期純損失85,991千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期の連結業績予想につきましては、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年2月14日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表しました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,263,904	1,045,770
受取手形及び売掛金	686,051	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	576,144
商品	246,680	344,513
短期貸付金	15,988	15,691
収納代行未収金	1,133,693	1,239,967
代位弁済立替金	374,897	468,125
その他	120,242	118,108
貸倒引当金	△348,337	△433,434
流動資産合計	3,493,121	3,374,886
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	120,545	90,545
土地	153,155	90,317
その他（純額）	7,917	6,312
有形固定資産合計	281,618	187,175
無形固定資産		
ソフトウェア	27,588	19,061
のれん	20,185	16,629
その他	18	18
無形固定資産合計	47,791	35,709
投資その他の資産		
投資有価証券	186,729	178,719
長期貸付金	393,287	365,081
敷金	41,545	41,448
長期未収入金	30,500	30,500
その他	16,018	16,090
貸倒引当金	△64,038	△64,016
投資その他の資産合計	604,042	567,823
固定資産合計	933,452	790,707
資産合計	4,426,573	4,165,594
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	255,201	178,449
未払金	1,208,864	1,277,856
未払法人税等	123,167	4,511
前受収益	418,880	489,064
短期借入金	225,000	204,000
1年内返済予定の長期借入金	76,790	86,294
債務保証損失引当金	89,920	91,980
賞与引当金	—	9,000
その他	324,687	288,232
流動負債合計	2,722,511	2,629,389
固定負債		
長期借入金	529,260	438,122
利息返還損失引当金	7,365	6,894
その他	500	10,500
固定負債合計	537,125	455,517
負債合計	3,259,637	3,084,907

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	86,201	86,193
利益剰余金	979,632	893,640
自己株式	△3,701	△3,761
株主資本合計	1,162,131	1,076,072
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,340	2,991
その他の包括利益累計額合計	1,340	2,991
新株予約権	100	100
非支配株主持分	3,364	1,523
純資産合計	1,166,936	1,080,687
負債純資産合計	4,426,573	4,165,594

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
営業収益		
売上高	2,617,746	2,601,372
その他の営業収益	1,052,074	1,030,309
営業収益合計	3,669,820	3,631,682
営業原価		
売上原価	1,943,465	2,023,974
その他の原価	260,947	272,761
営業原価合計	2,204,413	2,296,735
売上総利益	1,465,407	1,334,946
販売費及び一般管理費	1,265,038	1,414,485
営業利益又は営業損失(△)	200,369	△79,538
営業外収益		
受取利息	6,258	6,021
受取保険金	3,643	—
為替差益	1,630	3,640
補助金収入	561	5,900
その他	2,676	724
営業外収益合計	14,770	16,286
営業外費用		
支払利息	6,579	11,282
貸倒引当金繰入額	6,383	822
その他	1,748	376
営業外費用合計	14,711	12,482
経常利益又は経常損失(△)	200,428	△75,734
特別利益		
投資有価証券売却益	—	7,581
事業譲渡益	15,538	—
新株予約権戻入益	16,000	—
その他	4,017	—
特別利益合計	35,555	7,581
特別損失		
固定資産売却損	—	8,051
固定資産除却損	367	—
特別損失合計	367	8,051
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	235,616	△76,204
法人税、住民税及び事業税	16,135	11,628
法人税等合計	16,135	11,628
四半期純利益又は四半期純損失(△)	219,481	△87,832
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	2,096	△1,841
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	217,385	△85,991

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	219,481	△87,832
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,874	—
為替換算調整勘定	△330	1,651
その他の包括利益合計	△5,205	1,651
四半期包括利益	214,276	△86,180
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	212,179	△84,339
非支配株主に係る四半期包括利益	2,096	△1,841

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の決算短信の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライセンス
売上高						
外部顧客への売上高	2,148,431	1,033,305	71,636	139,496	82,967	189,581
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	300	—	—
計	2,148,431	1,033,305	71,636	139,796	82,967	189,581
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	187,874	138,343	△213	2,458	△19,543	△18,601

(単位：千円)

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	4,401	3,669,820	—	3,669,820
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	300	△300	—
計	4,401	3,670,120	△300	3,669,820
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	2,735	293,053	△92,684	200,369

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△92,684千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「マスターライセンス」事業において、当第3四半期連結会計期間に、株式会社ホールワールドメディア株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの発生額は5,252千円であります。

「マスターライセンス」事業において、当第3四半期連結会計期間に、株式会社角川春樹事務所からの事業譲受により、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの発生額は20,000千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライセンス
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	1,860,586	976,048	—	95,738	345,618	296,604
その他の収益(注) 4	—	54,004	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,860,586	1,030,053	—	95,738	345,618	296,604
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	558	—	736
計	1,860,586	1,030,053	—	96,296	345,618	297,341
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	43,256	77,023	△45,495	△313	41,991	△67,907

(単位:千円)

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
顧客との契約から生 じる収益	3,080	3,577,678	—	3,577,678
その他の収益(注) 4	—	54,004	—	54,004
外部顧客への売上高	3,080	3,631,682	—	3,631,682
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,294	△1,294	—
計	3,080	3,632,977	△1,294	3,631,682
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	1,247	49,802	△129,340	△79,538

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△129,340千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

4. その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。